

第6期 第2四半期報告書

(平成11年10月1日～平成11年12月31日)



平成12年1月27日

株式会社 旅籠屋本店

会社名(定款上の商号)	株式会社 旅籠屋本店
英文名(英文商号)	Hatagoya Honten Co.,Ltd
代表者の役職氏名	代表取締役社長 甲斐 真
本店の所在の場所	東京都台東区寿3丁目3番4号
電話番号	03-3847-8858
連絡者	代表取締役社長 甲斐 真

当四半期までの業績の概況

(1) 損益の状況

損益計算書	第1四半期	第2四半期	当期累計	前年同期累計
(単位：千円)	H11.7.1～ H11.9.30	H11.10.1～ H11.12.31	H11.7.1～ H11.12.31	H10.7.1～ H10.12.31
売上高	14,406	9,057	23,463	22,482
営業費用	<u>13,797</u>	<u>18,388</u>	<u>32,185</u>	<u>27,118</u>
営業利益	609	9,332	8,723	4,636
営業外収益	4	283	287	3
営業外費用	<u>299</u>	<u>138</u>	<u>437</u>	<u>0</u>
経常利益	314	9,186	8,873	4,633
特別利益	0	0	0	0
特別損失	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>
当期利益	314	9,186	8,873	4,633
前期繰越損益	45,982	45,982	45,982	27,098
当期未処理損益	45,669	55,169	54,855	31,731
期中平均発行済株式総数	3,000 株	3,215 株	3,108 株	
1株当たり当期損益	104 円	2,857 円	2,854 円	

(2) 営業損益の部門別内訳

鬼怒川店の状況	第1四半期	第2四半期	当期累計	前年同期累計
客室稼働率	74.5%	62.0%	68.2%	66.3%
室料単価	12,310 円	8,920 円	10,770 円	10,335 円
売上合計	14,175,690 円	8,600,850 円	22,776,540 円	22,041,325 円
室料売上	13,492,500 円	8,143,800 円	21,636,300 円	20,152,975 円
室料外売上	683,190 円	457,050 円	1,140,240 円	1,888,350 円
運営費用合計	<u>4,958,767 円</u>	<u>7,529,763 円</u>	<u>12,488,530 円</u>	<u>11,217,664 円</u>
営業損益(償却前)	9,216,923 円	1,071,087 円	10,288,010 円	10,823,661 円
本社の状況	第1四半期	第2四半期	当期累計	前年同期累計
売上合計	230,299 円	455,716 円	686,015 円	441,000 円
費用合計(償却前)	<u>6,766,487 円</u>	<u>8,527,054 円</u>	<u>15,293,541 円</u>	<u>11,785,802 円</u>
営業損益(償却前)	6,536,188 円	8,071,338 円	14,607,526 円	11,344,802 円

償却費(4,404千円)を考慮した鬼怒川店と本社の営業損益の当期累計は、8,723千円となります。

「鬼怒川店」は当四半期も順調に稼働し、第1四半期に続き、客室稼働率・室料単価とも前年同期を上回りました。売上累計も微増しましたが、10月に約150万円を投じて給湯設備を貯湯式ボイラーから個別給湯に全面交換したため、営業損失は若干拡大しております。これによってシャワー圧の低さや赤錆の発生が抜本的に解決され、利用者に好評です。

「本社」については、本社ビルへの自販機設置によって売上が増加しておりますが、モデルプラン作成に関する社外設計スタッフへの委託費、「不動産活用展」への参加などを含む広告宣伝費の増加、増資による登録免許税の支払いなどによって、当期累計で350万円ほどの費用増となっております。

(3) 財政状態の状況

貸借対照表	前期末	第1四半期末	第2四半期末
(単位：千円)	H11.6.30	H11.9.30	H11.12.31
資産の部			
流動資産	2,705	14,883	70,213
現金預金	2,486	14,664	70,048
その他	219	219	165
固定資産	119,980	125,169	153,068
有形固定資産	116,671	114,811	142,760
無形固定資産	225	225	225
投資等	3,083	10,133	10,083
繰延資産			
新株発行費	0	0	7,418
資産合計	122,686	140,052	230,699
負債の部			
流動負債	1,268	321	1,154
固定負債	17,400	35,400	35,400
負債合計	18,668	35,721	36,554
資本の部			
資本金	150,000	150,000	249,000
剰余金	45,982	45,669	54,855
(うち当期損益)	(18,885)	(314)	(9,186)
資本合計	104,018	104,331	194,145
負債資本合計	122,686	140,052	230,699
発行済株式数	3,000株	3,000株	4,980株
1株当たり純資産	34,673円	34,777円	38,985円

9,900万円の公募増資(741.8万円は新株発行諸費用)11月の「那須店」用地(既存建物を含む)の取得により、預金・固定資産・繰延資産および資本金が増加しております。

(4) 財務諸表作成の基本となる事項

当期末を除く四半期財務諸表の作成の基礎としている会計処理の原則及び手続は、下記事項を除き、正規の決算において採用している基準と同一のものを適用しております。正規の決算において採用している重要な会計方針等は「会社内容説明書 第5 経理の状況 1 計算書類」の重要な会計方針をご参照ください。

事業年度の財務諸表作成のために採用している会計処理の原則及び手続と異なる会計処理の基準は次の通りであります。

1. 固定資産の減価償却の方法

各四半期の減価償却費は年間発生額の1/4に該当する金額を計上しております。

2. 経過勘定項目

未収入金、前受金、未払費用などのうち重要性の低い項目については、四半期決算書上、計上を省略しております。

なお、当四半期財務諸表については、公認会計士の監査証明を受けておりません。

(5) 会計方針の変更

該当事項はございません。

(6) 資金の状況

現預金の増減	第1四半期	第2四半期
(単位：千円)	H11.7.1～ H11.9.30	H11.10.1～ H11.12.31
期初現金預金残高	2,486	14,664
期末現金預金残高	14,664	70,048
当四半期の増減	+12,177	+55,385

借入金の増減	第1四半期	第2四半期
(単位：千円)	H11.7.1～ H11.9.30	H11.10.1～ H11.12.31
期初借入金残高	17,400	35,400
期末借入金残高	35,400	35,400
当四半期の増減	+18,000	0

借入金の内訳

甲斐 真氏（代表取締役）より 25,400 千円

事業計画において経常損益が黒字化する 2002 年 6 月期までの 3 年間で支払据置期間とし、以後 10 年間で年利を長期プライムレート+0.1%の変動金利と設定し、元利均等で返済。

朝日信用金庫より 10,000 千円（当四半期新規借入れ）

台東区の中小企業制度融資を利用したもので、年利は 1.2%、5 年間元金均等で返済。

チェーン店の出店計画の進捗状況

(1) 2号「那須店」について

経過 1999年11月30日 用地（既存建物付き）を購入、
1999年12月24日 建築確認申請（1月7日付けで確認済み）
2000年1月10日 支配人募集開始（2月9日応募者面接予定）
2000年1月28日 施工業者決定、工事請負契約を締結
2000年2月1日 建設工事 着工
2000年4月10日 建物竣工、支配人入居・オープン準備
2000年4月25日 オープン予定

場所 東北自動車道「那須IC」下車約5分、「クイーンズ美術館」向かい

概要 平屋建て、客室12室、延床面積：394㎡、敷地面積：1,539㎡
那須ICから車で約5分、観光客でにぎわう「りんどう湖」や「オルゴール美術館」に近く、「クイーンズ美術館」の正面という好立地。増改築によって「旅籠屋」への転用が可能な既存建物付きの物件を格安で購入。設計・建築確認・業者選定も終わり、ゴールデンウィーク前にオープンする予定です。支配人についてはアウトプレースメント会社・人材銀行などに求人情報を流しており、2月に人選を終え、3月より研修を開始する予定です。

(2) 3号「秋田六郷店」について

経過 1999年8月5日 建物賃貸借予約契約締結
1999年10月20日 建設工事 着工（10月12日建築確認済み）
2000年1月16日 土地建物売買覚書締結（建物賃貸借予約契約解約）
2000年4月上旬 建物本体完成、土地建物売買契約締結
2000年5月10日 建物竣工、土地建物引渡し、支配人入居・オープン準備
2000年6月1日 オープン予定

場所 国道13号線沿い（横手・大曲のほぼ中間）

概要 2階建て、客室12室、延床面積：495㎡、敷地面積：1,081㎡
昨夏までの段階では、公募増資などによる自己資金調達が困難であったため、土地所有者に建物の建築費を負担いただく方式による店舗展開を目指しており、本件はその最初の成約例にあたるものです。ところが「借上げ直営」の契約を終え着工後の昨年12月の時点で土地所有者による資金借り入れが不調となり、急遽当社が土地および竣工後の建物を購入し「所有直営方式」で経営することとなりました。現時点では事業方式の選択肢も増え、需要の多い首都圏を中心に展開したいところですが、土地を格安で譲っていただくことで客室稼働率が45%（「鬼怒川店」実績：12室換算で70%、「那須店」想定：65%）前後でも損益収支がプラスになること、地方の郊外における実績データの取得が今後の市場判断資料（金融機関の事業性判定用など）として非常に有効であること、すでに着工後の段階であったことなどの事情を勘案し、計画変更に踏み切ったものです。角館や田沢湖などの観光地にも近く、「旅籠屋」ならではの可能性を開拓・実証したいと考えております。なお、支配人についてはすでに確保を終えております。

(3) 他の計画について

現有の預貯金は「那須店」の建築費および「秋田六郷店」の土地建物購入資金に充当（不足分については中小企業金融公庫に借り入れ申込み済み）するため、4号店以降の計画については、今秋に予定している第2次公募増資および現在打診中のベンチャーキャピタルからの出資状況を見ながら具体化する予定です。

なお、公募増資に関する日経新聞での記事や「不動産活用ニュービジネス展」などへの参加により、昨年末以来各方面から土地活用の引き合いを多く受けており、用地視察などの予備検討を行っております。

具体的な出店計画については、決まり次第ディスクローズする予定です。

(4) 重要な契約の締結等

- ・ 「那須店」に関する「土地建物売買契約（1999年11月30日）」および「建物建築請負工事契約（2000年1月28日）」
- ・ 「秋田六郷店」に関する「土地建物売買に関する予約契約」

当期の業績予想（平成11年7月1日～平成12年6月30日）

事業計画書（1999年11月15日）に記載の当期利益計画

	当期（予想）	前期（実績）
	H11.7.1～H12.6.30	H10.7.1～H11.6.30
売上高	38,600千円	37,850千円
経常損益	31,956千円	18,272千円
当期損益	33,534千円	18,884千円
1株当たり当期損益	6,734円	6,295円

「那須店」のオープンが4月25日となり、今期中に売上が発生するため、今期の売上高は若干増加すると思われませんが、他の費用増もあるため、現時点での利益計画は「事業計画書」に記載した金額から大きな増減はないと思われれます。

なお、当期の経常損失が前期に比べ拡大するのは、新規出店に伴う費用によるものであり、「事業計画書」に記載した内容のとおり、平成14年6月期には黒字となる見込みです。

その他事業計画等の変更点

今期中にオープン予定の新規店舗数が1店減少する点を除き、「事業計画書」に記載した内容のとおりであり、大きな変更点はありません。

以上